

いちのせき賑わい「ど市」が通算88回目
商売繁盛と米寿の節目を祝う

いちのせき賑わい「ど市」は5月3日、一関市錦町水天宮通りで開かれ、大勢の人が餅つきなどのイベントを楽しみました。開会式で、実行委員会の三浦栄蔵会長は「ど市は、売り手と買い手が会話を楽しみながら商いを行う商売の原点ともいえる場所。今後も良いものを安くお届けしたい」とあいさつ。来場者は「海や山のものなど品数も多く、買い物が楽しい」と店舗をめぐっていました。「ど市」は1997年から始まり、今回で通算88回目。年5回開かれており、6、7、9、10月の各第1土曜日に開かれる予定です。



威勢の良い餅つきで節目を祝った「ど市」



受賞報告で胸を張る伊藤会長(左)と千葉前会長(右)

農林水産大臣賞をダブル受賞
市農業委員会と千葉哲男前会長が受賞報告

市農業委員会の伊藤公夫会長と千葉哲男前会長は5月16日、勝部修市長に農林水産大臣賞の受賞を報告しました。市農委は、23年度の農地集積率30.7%（同年度の平均は25.5%）や広域合併後の組織活動を活性化させたことが評価されました。また、千葉前会長は1996年7月から10年にわたって農業委員を、06年から6年間会長を務めました。家族経営協定の普及拡大に取り組み、「現場の声を第一に」を信念に、農業委員の活性化に尽力した功績が認められました。



見事なぼたんの花が来場者を迎える

咲き誇る百花の王
花と泉の公園で「ぼたん祭り」始まる

「ぼたん祭り」は5月10日、花と泉の公園で始まりました。ぼたんの花は百花の王とも呼ばれ、同園には300種5000本もの花々が咲いています。その規模は東北でも最大級。来場者は、例年より1週間ほど早く開花した大輪の花に見入っていました。宮城県栗原市から夫婦で訪れた菅原武男さん(73)は「2年ぶりに来ました。手入れも行き届いていて、気持ちもゆったりしますね」とにっこり。ぼたん祭りは、6月の中旬まで開催予定。期間中は土、日を中心にイベントも企画しています。

「FMあすも」開局から2周年
ラジオから地域の話や情報を発信

一関コミュニティFM「FMあすも」は4月29日、開局2周年を迎えました。同日は、特別番組が企画され、中継車が地域の紹介や住民との交流の様子を発信しました。パーソナリティーの塩竈一常さんは「心と心のかげ橋たれ、を合言葉に取り組んできた。リスナーの皆さんからも多くの情報が寄せられるようになり、交流を深め合える番組になったと感じます。これからも、まちづくりの手助けをしたい」と力を込めました。同局は、大町・なのはなプラザのスタジオを中心に、身近な話題をはじめ、行政情報や災害情報などを提供しています。



特別番組では尻鼻溪を訪れて船頭の唄を生中継

勝部市長が藤原秀衡役で平安絵巻に参加
「源義経公東下り行列」に観客22万人

「春の藤原まつり」(平泉観光協会主催)の最大の見せ場「源義経公東下り行列」は5月3日に行われ、22万人の観客が見守る中、華やかな衣装に身を包んだ義経に扮する俳優の山本裕典さん(26)、藤原秀衡役を務めた勝部修市長や騎馬武者ら93人が平泉町内を練り歩きました。

「源義経公東下り行列」は、兄・頼朝に追われ、平泉にたどり着いた義経を、藤原秀衡が温かく迎えた様子を再現したもの。一行は毛越寺での「ねぎらいの場」に臨み、国の重要無形民俗文化財「延年の舞」を見物しました。本行列は、同寺山門から中尊寺までの約4kmを沿道の声援に応えながら移動。見物客らは、目の前で繰り広げられる壮大な平安絵巻を堪能していました。

山本さんは「平泉町の歴史ある行事に参加できてうれしい。皆さんの大きな声援に励まされた」と笑顔を見せ、侍女役で出演した仙台市の詩田彩渚さん(15)は「侍女の役は祖母、母、私と、代々受け継いでできました。緊張せず、堂々と歩くことを意識しました」と話してくれました。

本市と平泉町は、世界遺産追加登録を目指す本寺の「骨村荘園遺跡」など、歴史的に深いつながりがあります。



1_中尊寺を出発する一行。総勢93人で、壮大な平安絵巻を再現しました / 2_秀衡が義経を温かく迎える情景を再現した「ねぎらいの場」 / 3_出演者のメイクや着付けは、大勢のスタッフの手がかかっている / 4_俳優の山本裕典さんが源義経を演じた / 5_秀衡役には勝部市長 / 6_侍女役の詩田彩渚さん



雪渓を踏みしめながら頂上を目指す登山者

第53回栗駒山山開きに県内外から登山者が集う
待ちに待った登山シーズン到来

栗駒山の山開きは5月18日に行われ、県内外から訪れた登山者が山頂を目指しました。今年は例年になく雪が多く残り、国道342号真湯一須川間は16日に開通したばかり。須川ピジターセンターで、安全祈願祭を行った後に登山開始。小雨まじりの天候と強風に苦戦しつつも、互いに声を掛け合いながら無事に頂上にたどり着きました。山目字中野から来た高橋芳宏さん(70)は「風と足場の悪い雪渓に苦労しました。夏や秋の栗駒山も楽しみにしています」と登山シーズンの到来を喜んでいました。

千厩と気仙沼、まつりで結びつき強める
昭和を再現した街並みに活気あふれる

せんまや気仙沼街道まつりは5月18日、千厩町の四日町、東栄町の商店街で開かれました。歩行者天国になった沿道にはクラシックカーをはじめ、貴重な蓄音機や鉄道写真などが展示されました。気仙沼クラシックカークラブ会長の渡部正行さん(65)は「震災後、千厩を会場にイベントを継続したことが始まり。街並みと車が互いの良さを引き出す」と笑います。実行委員長の菅原良一郎さん(52)は「震災復興、まちづくり、交流人口の拡大と様々な思いを実現できるまつり。絆を深め、にぎわいを取り戻したい」と意気込みました。



昭和時代の懐かしい名車などが沿道に展示されました